

2024年度 福祉医療マネジメント研究科

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況 (実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
①設置申請に記載した事項を誠実に履行する。完成年度までの2年間は、申請内容の遵守が求められる。					
<p>②設置申請上、最大の課題は、1学年50名(春学期25名、秋学期25名)の定員確保である。 23年12月の第Ⅰ期入試で4名、2月の第Ⅱ期入試で17名、科目等履修生1名の入学者が決まっている。春学期25名の目標は、残念ながら未達である。秋学期は4名の入学者を確保しているが、1学年50名の目標を達成するには、第Ⅲ期入試で29名の学生を確保しなければならない。</p> <p>具体的な方法としては、ホームページの内容やパンフレットの内容をより専門職にアピールするものに改善すると同時に、福祉医療分野の組織の管理職や経営者にマネジメント能力の必要性を認知させる方法を検討する。</p> <p>そのためには、公開講演会や大学院説明会の継続的な実施と、研究科に付属する形で設置している学会の活動を活性化させる。</p> <p>また、学内教職員と情報を共有し、卒業生に対するPR活動を定期的に行う。</p> <p>外国人留学生に関しては、日本語学校や海外大学の教員との連携を強める。</p> <p>アドバイザーボードに対しては、継続的に意見交換を行い、施設や組織に所属する専門職や管理職、経営者の学びの場として活用していただく。</p> <p>さらに、福祉医療分野に関連する多種多様な事業に従事する社会人に本研究科の人材育成の意義を理解してもらい、学生募集に繋げる。</p>					
③申請時に課題となった授業内容や方法に関しては、初年度ということもあり、試行錯誤的な状況にある。特に、ハイフレックス授業が展開されることになるため、ディスカッションなどが効果的に実施できるか否かを確認しつつ、その実施に問題が生じないように運営する必要がある。					